

バカ本

バカを科学で分解

なぜあの人はこんなに
「バカ」なのか

著者 安田大介

100の行動を、認知バイアスと行動科学から読み解く



「知らない」と言えないバカ

会議で急に知らない話題が出たのに、なぜか即答する人がいます。少し聞けば分かるはずなのに、質問も確認もせず、知っている側に立とうとします。

この人が恐れているのは、知識が足りないことより、『知らない自分』を人に見られることです。だから、分からないと認める代わりに、曖昧な相づちや一般論でその場を埋めます。本人の中では、答えを出すことより、評価を下げないことが先に来ています。ところが周囲から見ると、分からないことより、確認しないことの方が危険です。知らないまま判断されれば、後で直す人が増えるからです。

心理学では、自分についての望ましい見方を守ろうとする働きが研究されています。ただし、沈黙や即答だけで心の中を断定することはできません。時間がない、緊張している、質問の仕方が分からない場合もあります。ここで見るのは人格ではなく、『無知を開示できないと、情報が止まる』という構造です。

周囲からどう見えるか

周囲には、知識が少ない人ではなく、確認できない人として映ります。一度なら流せても、同じことが続くと、その人の返答は毎回だれかが裏取りしなければならなくなります。本人が守った数秒の面子より、チームが支払う確認コストの方が大きくなるのです。やがて重要な質問ほど、その人には直接聞かれなくなります。

科学の視点

自己概念防衛／知的謙虚さ。知的謙虚さは自己否定ではなく、自分の信念が誤りうる余地を保つ考え方として扱う。

じゃあどうする？

相手を言い負かす必要はありません。仕事なら、分かっていること、分からないこと、確認することを分けて返せば十分です。確認できる人へ直接聞く選択もあります。記録も残せます。あとは相手ではなく、目的に必要な情報を取りに行ってください。





















































